

項目	観点	教科書名			
		美術(9・開隆堂)	美術(38・光村)	美術(116・日文)	
1 学習指導要領の教科の目標を達成するために取り扱う内容の選択について	○美術の創造活動の喜びを味わい、美術を愛好する心情を育てるために、どのように配慮されているか。	・1学年オリエンテーションの「美術とは何か」を伝えるページでは、現代美術作家ヤノベケンジの作品を紹介し、困難に立ち向かう美術の可能性を考えさせている。 ・現代美術作家の作品を多く取り上げており、質的に高い内容を取り扱っている。 ・日本の伝統文化や伝統工芸を紹介することで、生活の中に生かそうとする心情を育むよう配慮されている。	・1学年オリエンテーションの「美術とは何か」を伝えるページでは、谷川俊太郎の詩とシャガールの作品を紹介し、美しさを感じ取る教科目標を示している。 ・芸術作品に出会える場所としての美術館体験を呼びかける題材を設定し、生涯に渡り美術を愛好する心情を育むよう配慮されている。	・各学年始めのオリエンテーションでは、表紙に明示されているテーマ「1ー出会いと広がり」「2・3上ー学びの深まり」「2・3下ー美の探求」が理解できるよう構成されている。オリエンテーションでの発達段階に応じた作品や作家紹介「1ーゴッホ」「2・3上ー井上直久」「2・3下ー伊勢崎淳、新垣優香」から、表現・鑑賞の活動へつなげるように構成されている。 ・生涯に渡り美術を愛好する心情を育むために、アートイベントや美術館体験、ワークショップといったアート体験を呼びかけている。	
	○感性を豊かにし、美術の基礎的な能力を伸ばし、美術文化についての理解を深め、豊かな情操を養うために、どのように配慮されているか。	・美術史年表では、文明発祥からの表現の変遷について、紹介作品を「顔」の表現の変遷のみと、思い切った切り口にして紹介したため分かりやすい。 ・鑑賞の題材においては、美術と社会の課題や共生にもふれている。	・巻末の美術史年表では、日本と西洋だけでなく朝鮮と中国の年代も紹介されており、西洋との比較のみならず文化の伝来と日本文化の関係性を感じさせようとしている。 ・鑑賞の題材においては、美術史年表と関連させた解説「トピックス美術史」が充実している。	・美術年表での作品紹介を絞って簡略化したため分かりやすい。仏像や浮世絵などの日本美術が、どのように外国から影響を受けたり与えたりしたのかを、年表内に矢印を使い説明している。 ・鑑賞の題材が充実しており、また前後のページで表現・鑑賞の活動と連携させている。	
2 内容の程度及び取扱いについて	＜基礎・基本の定着のための工夫＞ ○(共通事項)を視点とし、美術の基礎的な能力を育成するために、どのような工夫が見られるか。	・巻末で、絵の具の扱い方や道具の安全な使い方、色彩資料を掲載し、生徒が安全に活動し基礎・基本を確実に身に付けられるよう配慮されている。 ・各題材の中にも技法説明の欄があり、学習を進めやすいように工夫されている。	・巻末で、技法や素材について「学習を支える資料」としてまとめられており、資料集の機能も併せもっている。 ・題材のはじめに学習の目標や共通事項が示され、学習のねらいを意識して取り組めるように工夫してある。	・巻末に基礎・基本の定着のためのページが設定されている。 ・各題材に「ポイント」という欄があり、基礎・基本の定着のためのヒントが紹介されている。 ・技法などは参照マークで、関連のある巻末資料を自ら確認できるようにになっている。	
	＜関心・意欲を高め、主体的な学習活動を促すための工夫＞ ○表現及び鑑賞の活動への意欲を高めるために、どのような工夫が見られるか。	・「原寸ギャラリー」が3つあり、作品のもつ精細さや迫力を感じ取ることができる。 ・題材の導入として、鑑賞作品とともに作者の言葉や鑑賞の視点が掲載されていて、意欲を高めるよう工夫が見られる。	・原寸大で作品を紹介するページがあり、作品のもつ精細さや迫力、作者の工夫を感じ取ることができる。さらにページ端に5mm幅の目盛を表示してイメージしやすく配慮している。 ・鑑賞作品には必ず詩が添えられており、作品への思いを広げられるように工夫している。	・和紙の質感を生かしたページで日本の伝統的な美術(水墨画・浮世絵＝原寸大)の風合いを視覚だけでなく触覚でも鑑賞できる。 ・A4ワイド版で、見開き4ページの作品が3つあり、迫力がある。 ・鑑賞やデザインを学習するためのガイドページが用意されている。	
	＜個に応じた指導のための工夫＞ ○主題を生み出したり、材料や用具の特性を生かしたりするなど、創意工夫して表現する能力を高めるために、どのような工夫が見られるか。	・導入における鑑賞の問いかけなどが色枠に、基礎的な技法や知識、ヒントが飾り枠になっており、見やすくしてある。 ・作品には作者の言葉が載せてあり、発想のポイントや工夫点が分かるようになっている。	・美術1では、幼児期から中学校にかけてどのように表現活動が変化していくのか紹介されている。 ・詩と作品を掲載することで、作者の思いをくみ取りやすくしている。 ・「みんなの工夫」で、発想や表現方法が異なる二人の生徒の制作過程を掲載して表現方法を広げる工夫がされている。	・学習で必要な技法や資料は「参照」マークで巻末資料に誘導することで、紙面にゆとりを与え見やすくなるよう工夫されている。 ・作品図版のほかに、生徒の学習の様子やアイデアスケッチなどの図版を掲載し、学習のイメージがつかめるように工夫されている。 ・生徒作品の「作者の言葉」を赤枠白抜き文字で目立たせ、見やすいように工夫している。	
3 構成・配列・分量	○各学年の目標や発達の段階からみて、題材の構成・配列、各領域の内容の分量には、どのような特色があるか。	・表現と鑑賞の学習を関連づけ、それぞれの活動の効果を相互に高めるように工夫している。 ・題材において、ページ数を変え、構成に変化をつけている。	・題材ごとに身に付けたい力を「目標」として明示している。チェックボックスを設けてあり、学習終了後に目標が達成できればチェックできる自己評価機能を持たせた構成となっている。 ・領域と分野を分け、巻末に資料を掲載してある。	・題材ごとに4観点の「学びのねらい」が明示されている。マークで4観点が区別されて理解しやすい工夫がなされている。 ・テーマを分けられた3分冊なので、発展的な学びができる。 ・2ページで1題材が示されており、見開きで題材を理解できるように工夫されている。	
4 表記・表現	○題材名やその示し方、図版等の説明について、さらに文字や作品等の色や大きさについて、どのような工夫が見られるか。	・題材名をゴシック体で統一して強調し、配列に動きを出し工夫している。 ・題材を「絵や彫刻など」、「デザインや工芸など」に分けてページの左上角に青色とピンクで明確に分類して見やすくしている。 ・鑑賞題材の図版は、全体と原寸による部分を見せる「原寸ギャラリー」があり、作品のイメージが広がる工夫がなされている。	・題材のねらいの観点では、題材の冒頭に4観点が示されている。 ・道徳教育との関連は左下に、技法等の関連ページの表示は右下に統一して掲載している。 ・原寸大の作品が掲載されているので、本物のタッチや色合いが伝わる良さがある。	・題材名を丸ゴシック体で表記、一部の文字を強調して工夫している。 ・題材のねらいの観点では、題材の冒頭に4観点が示されている。マークで表示したり色分けされていたりして分かりやすい。 ・文字や図版を大きさの順にたどっていくと自然に学習の流れが把握できるように工夫されている。	

項目	観点	教科書名		
		美術(9・開隆堂)	美術(38・光村)	美術(116・日文)
5体裁・使用上の便宜	○製本, 表紙, 目次及び資料の使いやすさについては, どのように配慮されているか。	・ややアイボリーに近いホワイトのコート紙を使用している。紙の厚さが厚めで, 発色は鮮やかである。 ・右上角の扇形の印で「ガイダンスや資料的な内容」を示している。 ・表紙に込められたメッセージの解説と作品が裏表紙に掲載されている。また, 表紙は人が一緒に写ることで作品の大きさが伝わるように工夫されている。	・アイボリー系のマット紙を使用し, 紙の厚さはやや厚めである。 ・表紙を開いてすぐと裏表紙の2か所に目次がある。 ・用具の使い方や表現方法に関連するページを入れ, 使いやすいように工夫されている。	・オフホワイトのコート紙を使用しているので, 発色が美しく図版の色彩が鮮やかである。紙の厚さはやや厚めである。 ・目次は表紙を開いてすぐのわかりやすい位置に掲載されている。文字の大きさも適切で見やすい。 ・和紙を使用するなどの工夫が見られ, 特に浮世絵の作品を原寸大で入れている。作品のよさを伝える配慮がなされている。